

《日本女性学研究会 2026 年 2 月例会》

【シリーズ 著書を語る・著者と語る】

菊地夏野

『ポストフェミニズムの夢から醒めて』

—ネオリベラリズムに対抗するフェミニズムのあり方を考える

日時: 2026 年 2 月 22 日(日)13:30~16:30

お話: 菊地夏野さん (13:15 開場)

コメント: 遠山日出也さん、桂容子さん、牧野良成さん、荒木菜穂さん

場所: ドーンセンター4 階大会議室3

(大阪府立男女共同参画・青少年センター。京阪「天満橋」駅、Osaka Metro 谷町線  
「天満橋」駅 ①番出入口から東へ約 350m)

参加費: 1000 円(日本女性学研究会会員は無料)

参加費は当日会場でお支払いください。

定員: 50 名

★参加申し込みは、下のフォームか、右の QR コードから。

<https://forms.gle/QkcU5gwahH1MzaHS8>

・当日参加も可能ですが、定員に達した場合、締め切らせていただきます。

問い合わせ先: [wssj.voice@gmail.com](mailto:wssj.voice@gmail.com)



この例会では、菊地夏野『ポストフェミニズムの夢から醒めて』(青土社 2025 年、2,400 円+税。裏面に詳しい目次を掲載しています)を扱います。「ポストフェミニズム」とは、「男女平等は実現したからフェミニズムはもう終わったと認識させる言説と社会状況」のことです(「まえがき」より)。

ネオリベラリズムの下、「女性活躍」が叫ばれ、女性も、ハンディを負ったまま、競争社会に巻き込まれてきました。また、現在、初の女性首相によって、女性の人権をはじめとした、さまざまな人権が後退させられようとしています。

フェミニズムは、そうした流れにどれほど対抗しえてきたのでしょうか? そうした流れに取り込まれてきた面はなかったでしょうか? 日本軍「慰安婦」やセックスワーカー、トランスジェンダーをはじめとしたマイノリティの声に背を向けている面はないでしょうか? いま、私たちには、どのようなフェミニズムが必要なのでしょうか?

この例会では、菊地さんの本を手がかりにして、そうした問題を考えたいと思います。当日は、菊地さんにお話しいただいたあと、コメンテーターのコメントを皮切りに、みんなで話し合っていきます。

主催: 日本女性学研究会 (<http://www.jca.apc.org/wssj/>)

# 菊地夏野『ポストフェミニズムの夢から醒めて』(青土社 2025 年、2,640 円) 紹介

## 《本の帯より》

フェミニズムの終焉をかたる「ポストフェミニズム」の時代を経て、私たちは再びその盛り上がり立ち会っているといわれる。だがそこで喧伝される「新しいフェミニズム」の実像と、その向かう先は果たしてどこまで理解されているだろうか。ネオリベラリズムと結託した「リーン・イン」や「女性活躍」の欺瞞を問い、セックスワーカーやトランスジェンダーへの差別、「慰安婦」問題などそこからこぼれ落ちるものにまなざしを向けることで、見えてくるものとは。フェミニズムをあきらめないための、たしかなる提言。

## 《目次》

### I ポストフェミニズムの時代に可視化されるもの

#### 第1章 憧れと絶望に世界を引き裂くポストフェミニズム

——「リーン・イン」、女性活躍、『さよならミニスカート』

#### 第2章 ポストフェミニズムとネオリベラリズム

——フェミニズムは終わったのか

#### 第3章 ネオリベラルな家父長制と女性に対する暴力

#### 第4章 可視化するフェミニズムと見えない絶望

——ポストフェミニズムにおける(再)節合に向けて

#### 第5章 ポストフェミニズムから 99%のためのフェミニズムへ

#### 第6章 『逃げ恥』に観るポストフェミニズム

——結婚／コンフルエント・ラブ／パートナーシップという幻想

### II 不可視化されるものとフェミニズムの未来

「雑多なフェミニズム」をめざして—第二部へのはしがきに代えて

#### 第7章 「慰安婦」を忘却させる植民地主義とポストフェミニズム

——『帝国の慰安婦』、スピヴァク、ポストコロニアル

#### 第8章 フェミニズムは右傾化したのか？

——ネオリベラル・フェミニズムの世界

#### 第9章 AV新法をめぐるフェミニズムの混乱

#### 第10章 安倍／統一教会問題に見るネオリベラル家父長制

——反ジェンダー運動とネオリベラリズムの二重奏

#### 第11章 99%のためのフェミニズムと私たち

#### 第12章 リーン・イン・フェミニズム批判と田中美津の〈どこにもいない女〉

#### 終章 「#MeToo」と「Ni Una Menos」から



\*菊地さんは、酒井隆史・山下雄大編著『エキストリーム・センター』(以文社 2025 年、3,200 円+税)の中でも、現在のフェミニズムをめぐる困難と希望について語っています。こちらも参考になります。